学力向上フロンティアスクール中間報告書

都道府県	東京都

Ⅰ．学校の概要（平成１５年４月現在）

清瀬市立清明小学校									
	１年	２年	３年	４年	５年	６年	特殊学級	計	教員数
学級数	２	２	３	２	２	２	０	１３	２２
児童数	７３	７７	８２	６２	６８	８０	０	４４２	

Ⅱ．実践研究の概要

１．研究主題

確かな学力の向上を目指して
－個に応じた指導の工夫・改善－

２．研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

○　指導方法・指導体制の工夫。
・　高学年における教科担任制。高学年担任による教科担任制は、国語・社会・理科・家庭科の各教科。専科担当教科等は、音楽・図工・道徳。
・　算数科における少人数指導（全学年での実施。１年・２年・４年・５年は、担任＋１名による２学級を３つの習熟度別クラスに編成。３年は、担任＋２名による５つのクラス。６年は、担任＋２名による４つのクラス。）
・　低学年におけるＴＴ体制。専科担当教諭と嘱託。

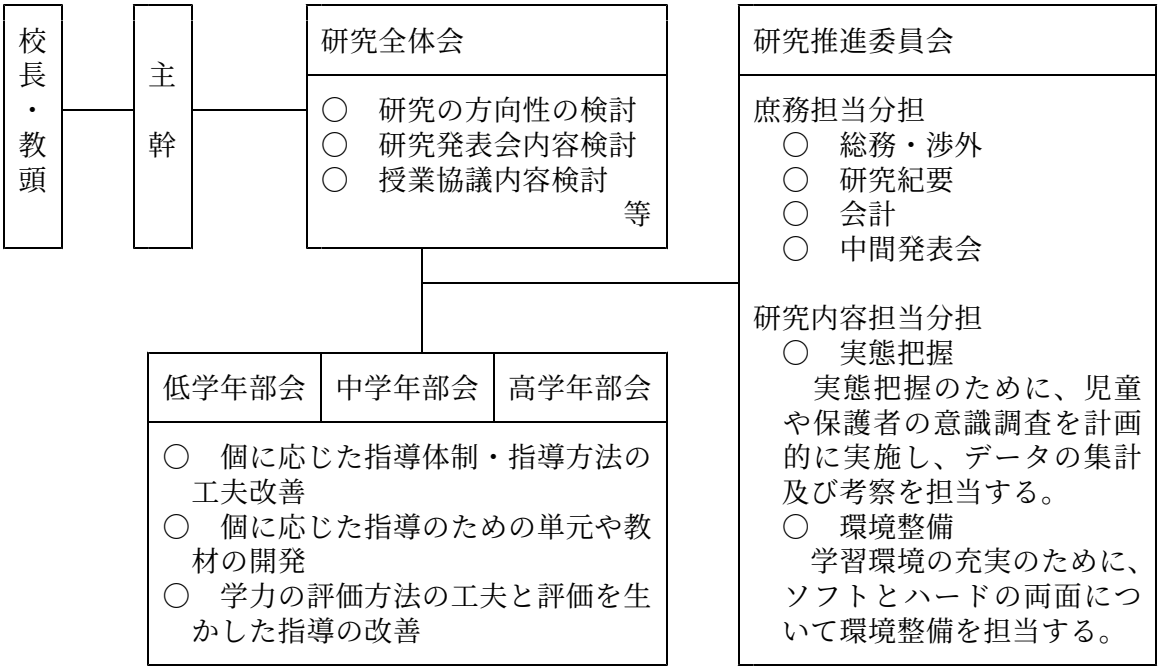
(2) 年次ごとの計画

平成14年度	○　テーマ 確かな学力の向上を目指して －個に応じた指導の工夫・改善－ ○　仮説 個に応じた指導を実践するために、指導方法や指導体制の工夫・単元や教材の開発・指導と評価の工夫を行うことにより、児童が学習に対する意欲を高め、個に応じた学習内容に積極的に取り組み、基礎的基本的な事項を着実に身に付け、確かな学力を向上できる。 ○　研究内容・方法 下記の３つの柱に基づき、研究を推進する。１年目の平成１４年度は、「ア」に焦点化し、３回の授業研究を通して研究を深めた。 ア　指導方法・指導体制の工夫 Ｔ・Ｔ、少人数指導、教科担任制等、個に応じた指導方法や指導体制の工夫・改善。 イ　単元や教材の開発 確かな学力の向上のための単元開発や、個に応じた指導のための教材の開発。 ウ　指導と評価の工夫 児童と学力の評価方法の工夫と評価を生かした指導の改善。

平成15年度	○　テーマ 確かな学力の向上を目指して －個に応じた指導の工夫・改善－ ○　仮説 個に応じた指導を実践するために、指導方法や指導体制の工夫・単元や教材の開発・指導と評価の工夫を行う。この３つの工夫を図ることで、児童は学習に対する意欲を高め、学習内容に積極的に取り組むようになる。このことによって、児童は基礎的基本的な事項を着実に身に付け、確かな学力を向上できる。 ○研究内容・方法 下記の３つの柱に基づき、研究を推進する。２年目の平成１５年度は、「イ」に焦点化し、６回の授業研究を通して研究を深め、平成１６年２月１３日に研究中間発表会を全１３学級の授業公開と合わせて実施する。 ア　指導方法・指導体制の工夫 ＴＴ、少人数指導、教科担任制等、個に応じた指導方法や指導体制の工夫・改善。 イ　単元や教材の開発 確かな学力の向上のための単元開発や、個に応じた指導のための教材の開発。 ウ　指導と評価の工夫 児童と学力の評価方法の工夫と評価を生かした指導の改善。

平成16年度	○　テーマ 確かな学力の向上を目指して －個に応じた指導の工夫・改善－ ○　仮説 個に応じた指導を実践するために、指導方法や指導体制の工夫・単元や教材の開発・指導と評価の工夫を行う。この３つの工夫を図ることで、児童は学習に対する意欲を高め、学習内容に積極的に取り組むようになる。このことによって、児童は基礎的基本的な事項を着実に身に付け、確かな学力を向上できる。 ○研究内容・方法 下記の３つの柱に基づき、研究を推進する。３年目の平成１６年度は、「ウ」に焦点化し、６回の授業研究を通して研究を深め、平成１６年１０月に３年次の研究発表会を実施する予定である。 ア　指導方法・指導体制の工夫 Ｔ・Ｔ、少人数指導、教科担任制等、個に応じた指導方法や指導体制の工夫・改善。 イ　単元や教材の開発 確かな学力の向上のための単元開発や、個に応じた指導のための教材の開発。 ウ　指導と評価の工夫 児童と学力の評価方法の工夫と評価を生かした指導の改善。

(3) 研究推進体制



Ⅲ．平成１５年度の成果及び課題

１．研究の成果

○ ＴＴ体制をとり、少人数指導でのグループ学習で「話すこと・聞くこと」の学習を進めることにより、児童一人一人の学習状況を的確に把握し指導を展開することができた。
○ 具体の評価規準に基づいた評価や具体的な支援をし、学習振り返りカードを用いることによって、学びが確実になり、児童の自己評価が適切に行われるようになった。
○ 習熟度別学習集団の編成方法について、本校としてのスタイルを創ることができた。オリエンテーション→レディネステスト→希望調査→個別面談→習熟度別コース分けというスタイルは、児童の中にも定着してきている。
○ 同一の学習内容であっても、習熟度別学習集団に応じた課題の提示を工夫することができた。
○ 教科担任制の取り組みは２年目になる。前年度の取り組みの成果を生かして推進するとともに、教科担任制のメリットを明確にしたり、学習や生活のルールを統一したりすることができた。
○ 具体の評価規準に基づいた学習シートを開発することで、学習シートから児童一人一人の学習状況を把握し、個に応じた指導を行い、指導と評価の一体化を進めることできた。

２．今後の課題

○「話すこと・聞くこと」の領域において、本校の児童に確かな学力として身に付けさせたい力を明確にし、系統的に指導する実践を推進していく。
○ 児童の学習状況の見取りの方法を一層工夫する必要がある。短時間で効率よくかつ的確に記録できる方法について、次年度以降も検討を加えていく。
○ 教科担任制では、開発した教具や学習シートの保管方法の統一を図り、蓄積されている各資料やデータを利用しやすくするためのシステムを構築する。

Ⅳ．学力把握のための学校の取組について

○　教職員にアンケートを実施し、自己評価を行う。前年度との比較により、一層の改善に結び付ける。
○　年間２回、児童・保護者にアンケートを実施し、学習指導の工夫・改善の評価を受ける。
○　評価規準に基づき、定着度をとらえ、児童・保護者に伝える。
○　平成１５年度に外部委託して学力調査を実施した。平成１６年度も継続して実施することで、結果を比較する。

Ⅴ．フロンティアスクールとしての成果の普及について

○　授業研究は、市内各学校のみならず、学校便りで保護者や地域に呼びかけ、積極的に公開していく。
○　ホームページ上に校内研究のページを設け、フロンティア事業の取り組みを発信していく。
○　地区協議会の開催を通して、市内各学校に情報を提供していく。
○　平成１６年２月１３日に研究発表会を行い、成果を広める。作成した研究集録は、市内全小中学校に配布する。
○　平成１５年１１月に、フロンティアテーチャーが三鷹市教務主任研究会の講師として教科担任制について講話を行った。
○　福島県等の管外視察を受け入れた。

◇　該当項目のチェック

【継続校】　■１４年度からの継続校
【学校規模】　■１３～１８学級
【指導体制】　■少人数指導　■ＴＴによる指導　■一部教科担任制
【研究教科】　■国語　■算数　■その他（教科担任制の各教科）
【指導方法の工夫改善にかかわる加配の有無】　■有